

家畜衛生だより 平成26年6月号

紀北家畜保健衛生所

TEL 073-462-0500

紀南家畜保健衛生所

TEL 0739-47-0974

東牟婁支所

TEL 0735-58-1481

【梅雨時期の飼養管理について】

畜舎は過ごしやすいですか？

梅雨時期になると、気温が上がるとともにジメジメした湿度の高い日がやってきます。人間も蒸し暑く過ごしにくい季節だなあと感じるのと同じように、家畜・家禽も同じことを思っています。人間なら涼しい場所へ移動したり、クーラーをつけたり、さっぱりしたものを食べたりして過ごすことができますが、家畜・家禽ではそうはいきません。少しでも飼養している家畜・家禽が過ごしやすい飼養環境を作ってやり、生産性を落とさないようにすることが非常に重要です。

畜舎内の風通しを良くしたり、換気扇の設置、屋根に石灰乳を塗布するなどの対策を行い温度や湿度を下げるとともに除菌・清掃・消毒などをこまめにするこゝでハエなどの害虫の発生を少なくすることができます。少し手間をかけることで飼養環境がよくなり、家畜・家禽も気持ちよく過ごすことができます。

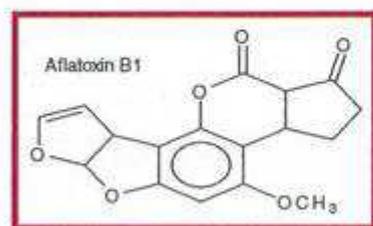
飼料は大丈夫？

梅雨時期は、害虫、細菌、カビなどが非常に発生しやすい時期です。特に栄養十分な飼料は害虫、細菌、カビなどが繁殖するには絶好の場所となりますので、その管理に注意が必要です。また、温度や湿度が高いと飼料が腐敗するなどの変質も起こってきます。

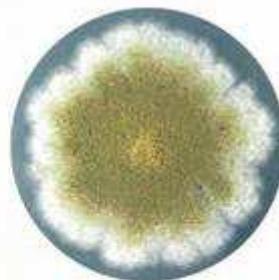
飼料への対策としては、倉庫やタンクなど飼料を置いておく場所の清掃・補修を行うことが大事です。雨漏りしていたり、汚れている倉庫やタンクに飼料があれば・・・どうなるかは想像できますね。また、畜舎同様少しでも風通しを良くして、スノコの上に置くなど湿気を避けるようにしましょう。飼料高が続き経営上飼料をまとめて購入することもあるかと思いますが、なるべく在庫量を調整し、入庫した順に使うようにしましょう。

カビが発生したり変質した飼料などを家畜・家禽が摂取した場合様々な影響があり、飼料摂取量や発育の低下、下痢・嘔吐などの胃腸障害以外にも肝機能障害、繁殖障害・早流産の発生、泌乳量・産卵率の低下などが引き起こされる場合があります。カビが産出する化学物質で人や家畜・家禽の健康に悪影響を及ぼすものの総称をマイコトキシンといい、アフラトキシンなどが有名ですが、約300種類以上のマイコトキシンが報告されており、その種類により家畜・家禽に与える影響も様々です。

カビの生えた飼料の全てがマイコトキシンを含むわけではありませんが、カビが生えた飼料は品質が低下しているので与えないようにしましょう。どうしても難しい場合には、他の良質な飼料と混合し薄めて給与したり、泌乳や産卵のピークでない(ストレスの少ない)個体や群に使用したりして家畜・家禽への影響を少なくしましょう。また、ビタミン剤やミネラルを同時に多く与えたり、吸着剤などを使用するのも効果があります。



アフラトキシンB1の構造式



024 *Aspergillus flavus*
C/G, 27°C, 12日培養 (6.090)

アフラトキシン産生菌(アスペルギルス)

その他ご質問等がありましたら、最寄りの家畜保健衛生所にお尋ねください。